

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2024年3月1日 246号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

未来を拓く者たち

レダ聖地体験ツアー第3陣



「レダと自然と人々に愛された」若者たち。レダを出発するにあたり「もっと体験したかった」の声。船着き場にて。1月24日



スルビです。2日後の釣り大会では驚異の釣果が。1月21日



養殖プロジェクト体験学習で、草刈りの合間に。1月20日

「レダでのみ得られる感覚と学び」

去る1月13日から2月2日までの21日間にかけて、南北米福地開発協会が主催する「レダ聖地体験ツアー」第3陣プログラムが実施されました。以下、引率リーダーの先山氏のレポートです。

今回は韓国留学生を中心に参加者を募集し、高校生、大学生、青年の計24名、引率者として韓国の善正中高の寄宿舎副苑長の先山、鮮文大学スタッフの大石、南北米福地開発協会の船戸と大野、合計28名での構成となりました。そのうち22名が留学生です。既に2か国語を話せ、海外生活も経験しているメンバーが大半という、第1陣、第2陣とはまた一味違う顔ぶれとなりました。

1月14日…先に出発した2グループが現地で合流しました。まず、アスンシオンの事務所を訪問。

佐野先生、中井先生ご夫妻にお会いしてパラグアイの様子を伺いました。また夕方にはパラグアイで働く2世の青年との交流の場が持たれました。

1月15日…最後に日本を出発したグループも合流しました。朝8時から今回のツアーのオリエンテーション。現地の民族音楽隊による歓迎セレモニーが始まり、スケジュールの確認、レダTシャツの配布などがなされました。午後からは首都アスンシオンの観光、夜は豪華ビュッフェで食事。ツアーへの期待が高まっています。

1月16日…朝8時から、現地アクアムンド社の佐藤夫妻を迎えて海洋摂理の講義を受けた後、いよいよレダに向けて出発しました。バスに乗って、450km、8時間の長距離移動でした。

1月17日…ローマ・プラタに到着。レダのツアーで必ず訪れるこの町は、メノー教徒が100年で造り上げた町で、多くの学ぶものがあるとスケージュールに組み込まれています。ツアーメンバーたちは、たまたまの整然とした町と、自分たちの文化を大切にしているメノー教徒の生き様から感じる世界がありました。この日の夕方にはカルメロ・ペラルタという港に到着し、いよいよパラグアイ川の船旅となりました。(次面につづく)



釣り大会。黄金のドラドが次々と釣れる。



最初にレダの公館「水一荘」を見学。



一行の乗ったバカンナ号がレダに到着。



いつも美味しい食事が待っている、レダ研修所の大食堂。



ニームの木の記念植樹を終え、全員でL (LEDA) サイン。



体験学習、水産の部。パクー養殖池で。



体験学習、内務の部。乾物倉庫にて。



滝川さんが水産養殖の展望をプレゼン。



世界自然遺産イグアスの滝を見学。(ブラジル)



村の小学校の壁を塗装。



プエルト・グアラニー村で折り紙教室。

レダ聖地体験ツアー第3陣（二面よりつづく）

1月18日…船上で初めての朝を迎えました。パラグアイ川の広大さを感じながら、この日も100km以上の移動となりました。レダに向かう途中、オリンポの港に立ち寄り、オリンポ教会を訪ねました。文先生ご夫妻が使われていた寝室などを見学し、レダに向けて祈禱を捧げました。またこの日に誕生日を迎えた姉妹のお祝いもできました。今回のツアーの期間に誕生日を迎えた兄弟姉妹は3人いました。

午後8時、レダに到着。荷物運びや宿舎への移動を、レダ滞在のメンバーが手伝ってくれました。

1月19日～23日…この5日間は、レダプロジェクト体験学習です。水産、農業、養豚、内務、島田家とそれぞれ分かれて体験学習をするのですが、雨と停電に悩まされ、一部スケジュールの変更をすることで対応しました。こうした特殊な事情が生じたこともあって、貴重な体験ができ、レダの可能性を見ることができました。ツアー参加メンバーも、もっとプログラムを体験したかったと言う意見が多くあり、レダと自然と現地の人に愛された期間でした。高校と大学の留学生が将来の夢や仕事に対して考えが大きく変わるきっかけになったようでした。

1月23日は釣り大会をしました。午前中だけの時間でしたが全員で合計60匹！黄金のドラドが20匹も釣れました！提唱者韓鶴子夫人も意識されているレダ聖地ツアーの運勢を感じます。この釣果には、レダ基地在住のメンバーも驚いていました。

1月24日…愛しいレダを出発することになりました。水産養殖のリーダー、滝川さんからレダの水産養殖の未来展望についてプレゼンを受け、今後のレダプロジェクトに希望を抱きながら船で出発しました。

1月25日～26日…プエルト・グアラニー村で奉仕活動。雨の影響でカナン牧場には行けませんでしたが、その分、奉仕に力を注ぎました。文具の贈呈、校舎の塗装、子供たちとの交流などです。日本人と接する機会のない彼らと、村を初めて訪れた私たち、短い期間でしたが互いにかげがえのない時間となりました。ツアー参加者たちも子供たちの純粋な姿に触れ、貢献できたことを喜んでいました。（三面につづく）

レダで働く人々

皆川晃さんはアメリカで38年間、「池の花」と「赤い花」というレストランでシェフとして歩きました。今、定年退職をきっかけに、約半年間の予定でレダに来て歩んでいます。現在レダで感じていることや今後の目標などを、チャパボラ生の木塚さんがインタビューしました。



レダは「初心に帰って行けるところ」

Q レダに来られた経緯、きっかけは？

A 昔からレダというところが、どんなところか関心があり、5、6年前からパンタナール通信を読むようになり、いつか来てみたいと思っていました。そこで定年退職したらぜひ行こうと思っていました。そして昨年、定年退職してきました。

Q どのような思いでレダに来られたのですか？

A 役に立てることがあれば、続けていきたいと思っています。一年間とか、あるいはもつと長期とかではなく、毎年数か月単位で通うような形でレダに関わっていきたいと思っています。

Q 今後、レダとの関わり方はどのように？

A 私が担当している料理の分野で貢献していきたいと思っています。

Q レダに来て意外に思ったことはありますか？

A 蚊の多さは聞いていたのですが、やっぱりこの暑さですね。今までに経験したことのない暑さです。屋外で仕事をしている人は立っているだけでも大変なのに、すごいと思います。あと、もう少し同年代が多いかなと思っていましたのですけれども、意外と若い人が



レダの大食堂厨房で調理する皆川さん。

多くて、また各プロジェクトに専属の人が少ないことに驚きました。

Q レダに来て大変だったことは？

A レダでは24時間のスケジュールがあつて、生活や仕事を律するリズムがありません。今までアメリカでそのような環境にはいなく、自由にやっていたので、レダの環境が自分には訓練であり、必要なのだなと思います。自分だけではなく、皆さんそれぞれが自由な時間の少ない中で、とても頑張っていると思います。

Q レダに来てよかったことは？

A 今まで神様を中心とした生活をしてこなかったことを反省させられています。毎日の歩みが朝の訓読から始まるような生活だけでも、アメリカに帰っても継続していかないといけないと思っています。

Q 今後の目標をどうぞ。

A 自分が関わっている料理の面で役に立てるようにもう少し力を入れていきたいです。

Q 皆川さんにとってレダとは？

A 「初心に帰って行ける場所」です。レダに居れば、毎日早朝に訓読をする環境の中に米自ずと入ることができ



皆川さん。麺をつくる。



皆川さん。納豆をつくる。

Q 世界と日本の皆様にひとこと。

A レダに来ている青年は、みんなしっかりしていて、長期で頑張る覚悟もっています。本当に彼らはレダになくはない人たちだと思います。

(二面よりつづく) 1月27日…パンタナールで文先生の船のキャプテンを7年間務めたピーターパウロさんの証を聞くことができました。文先生に至近距離で待った体験を本人から直接聞くことは、現地でのみ可能なのです。本当に貴重な時間でした。その後、再びバスに乗って首都アスンシオンに向かいました。

1月28日…アスンシオン教会の礼拝に参加しました。総指揮の立場で先山が活動報告をした後、2人の兄弟姉妹が証をし、歌をプレゼントしました。この日の晩、夜行バスでブラジルに向かいました。

1月29日…イグアスの滝を見学。世界最大級の滝を見て圧倒され、自然の偉大さと神の創造の偉大さを感じました。またアスンシオンに戻る途中、レダの前所長、中田実先生ご夫妻がおられるグアラニー族の村を訪ねました。現地で祝福活動を進しながら子供たちの教育をされている中田先生の姿に、ツアーのメンバー



中田夫妻が伝道・教育する村の教会を訪問。

1月30日…南米での最終日です。午前中、パラグアイ最大の全国紙を発行する「abc」新聞社を表敬訪問。夜は「ひろしま」という和食レストランで最後の夕食と証しの場となりました。ツアーのすべてのプログラムを構築し、準備に奔走された佐野先生には、参加メンバー全員が感謝していました。

未来世代にかける教育を参加者全員が刺激的に受け、心に刻みました。特に神様と提唱者ご夫妻の思いを近くに感じることができました。こうして第1次、第2次に続き、第3次もまた素晴らしいツアーとなりました。日本、パラグアイ、レダ現地において企画をサポートしてくださった方々、ご支援をくださったすべての方々に感謝いたします。(先山)

レダの電気屋さん 第8回



今回は少し電気から離れて、レダでの釣りの話をさせていただきます。

レダプロジェクト提唱者の文先生は、パンタナールで4種の魚を40匹ずつ釣るようにとおっしゃいました。そこで、皆それの一つのミッションとして釣りに取り組んでいます。4種の魚というのは、ボガ・パクー・ピンタード(またはスルビ)・ドラドです。

もちろん、仕事の時間には本来の仕事があるので釣りには行きません。それ以外の時間に釣るということで、主として調整日(休日となる日曜日)をレダではこう呼んでいます)に釣りに取り組むこととなります。

私は昨年11月に、ボガ40匹を達成したのですが、他の魚は1匹ずつでした。そしてそれ以降、なかなか釣れませんでした。ところが、1月に入り、レダツアーのメンバーが1日でドラドを20匹釣ったとかいう情報が入ってくるではありませんか。

自ずと、私の釣りにも気合が入ります。そして2月4日、黄金の魚と言われるドラドを釣りあげることになりました。とはいってもまだ2匹目です。まだまだ先にある40匹を目指し、頑張り続けます。

「山崎@レダ」というライングループで日々の情報を発信しています。※ラインで年齢認証ができないと、このQRコードからは参加できません。その場合は、他の参加者から招待を受けて下さい。(山崎茂章)



黄金色のドラド



第27回ワンデイセミナーのご案内

本年初のパンタナール・ワンデイセミナーを左記の要領で開催いたします。詳細については、同封のチラシ、または当会ホームページをご覧ください。

日時…2024年4月6日(土) 午前9時45分
会場…国立オリンピック記念青少年総合センター、セクター棟4階(東京都渋谷区代々木神園町3-1)
参加費…2000円(青年は1000円)昼食付き
プログラム(予定につき、変更することがあります)
・次世代の青年を育てるレダ 岩澤春比古所長
・レダプロジェクトの精神と奮闘史 柴沼邦彦理事
・レダプロジェクトの現状と展望 中田欣宏代表理事
・青年局の報告 藤生輝彦 青年局長
・レダから帰国した青年による体験談
・全員参加できる分科会、ほか
主催…(二社) 南北米福地開発協会
参加お申し込み、お問い合わせは、
下記事務局へお願いします。



あなたの腕と経験をレダで活かしませんか(5)

レダはあなたの力を求めています。あなたの培った技能や技術を、レダの現場で発揮してみませんか。



●木工技能者(大工)…レダを含むチャコ地方は、多様な木材の産地です。レダ基地内でも、家屋、建具、家具その他、いたる所に木工品が使われています。また近隣の村々の学校には、机、椅子、窓、ドア、その他、私たちが寄贈した木工品が数多くあります。

この10年間は、シニアメンバーの水落さんが、レダにおける木工業務を一手に担ってこられました。水落さんは大工としての経験が豊富で、レダに赴任して以来、腕利きの技能者として、木工機器や諸道具を作業場に整備し、レダ基地の様々な要請に応えてきました。

今その技能と業務を継承してくれる青年(ミドル世代)の技能者が必要です。特に国家資格をお持ちでなくても、経験と健康があれば大丈夫です。お問い合わせは下記事務局へお願いします。

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

e-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: https://asd-nsa.com

Facebook: https://www.facebook.com/ledaproject.jp/

レダ・プロジェクト紹介 用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>

レダのショート動画

1. 船からトラックへ飼料の荷役。1月20日
2. ツアー一行がレダを出港。1月24日
3. ツアー一行を見送る人々。1月24日
4. ロマ・プラタからトロパンパへ、チャコのぬかるんだ国道を走る。2月8日

